

## 昭和女子大学 内部質保証推進本部外部評価委員会 報告書

日時：2023年6月7日（水）15:00～16:30

場所：昭和女子大学 学園本部館3階中会議室

出席者：【学内】

坂東真理子総長、金尾朗学長、小川睦美副学長、  
井原奉明内部質保証推進本部本部長（副学長）、  
石垣理子内部質保証推進本部委員、清水史子内部質保証推進本部委員、  
緩利誠内部質保証推進本部委員、須永哲矢内部質保証推進本部委員、  
吉田奈央子内部質保証推進本部委員、山内浩内部質保証推進本部委員、  
中島さやか内部質保証推進本部委員、井口寛佳内部質保証推進本部委員、  
石川雄太内部質保証推進本部委員

【学外】（五十音順、役職名は委員会開催時点）

足立直樹 凸版印刷株式会社特別相談役  
岩本康 世田谷区副区長  
茂呂真理子 日能研本部 常務取締役  
渡辺修 石油資源開発株式会社 代表取締役会長

開会に先立ち、坂東総長から開会の挨拶があり、「女子大冬の時代」と言われている中で、本学では様々な教育活動に取り組んでいる最中である。コロナ禍でグローバル化推進や学部再編、新学科設置等十分に取り組むことができなかったが、コロナ収束を機に新たにチャレンジを始めなければいけない。2023年度からは新理事長の就任、学長の交代、副学長の増員等、体制も変わり、新たな気持ちで挑戦していくので、引き続きご指導いただいたとの発言があった。

続いて、井原内部質保証推進本部長から外部評価委員会の趣旨説明、学内の出席者および外部評価委員の紹介があった。

その後、「2022年度自己点検・評価報告書」の中から、2022年度の主なトピックス及び本学の教育の特徴である「グローバル」「キャリア」「プロジェクト」に焦点を絞って説明を行い、外部評価委員から評価・提言をいただいた。

## 報告（1）2022年度主なトピックス（清水内部質保証推進本部委員）

### ①教育活動

#### ・専門職大学院（福祉社会・経営研究科福祉共創マネジメント専攻）設置認可

（自己点検・評価報告書：第3章）

[説明]

保健・医療、福祉・施設等経営領域の高度専門職人材を養成する社会人向け1年制の専門職大学院（福祉社会・経営研究科福祉共創マネジメント専攻）の設置認可申請を行い、文部科学大臣から認可を受けた。2023年4月に開設し、29名の学生が入学した。

#### ・データサイエンス副専攻プログラム開始（自己点検・評価報告書：第4章）

[説明]

全学部生を対象に「データサイエンス副専攻プログラム」を開始し、当該プログラムの入門・初級レベルの科目群が、文部科学省から「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」に認定された。このプログラムは「データサイエンス・コア」「数理系科目群」「社会科学科目群」の3カテゴリーで構成され、所定の条件を満たした学生に対し「昭和女子大学データサイエンス認定証」を授与する。

#### ・学修ポートフォリオの導入（自己点検・評価報告書：第4章）

[説明]

2022年度から学修ポートフォリオを導入した。これにより、学修過程ならびに学修成果を長期に渡って収集・集約し、学生自身がディプロマ・ポリシーの達成度や学修の状況を確認できるようになった。

### ②環境・設備

#### ・正門改修（自己点検・評価報告書：第8章）

[説明]

創立100周年記念事業の集大成として、正門をリニューアルした。設計は、本学卒業生で世界的に活躍している建築家の永山祐子氏が手掛けた。

#### ・CAFE3オープン（自己点検・評価報告書：第8章）

[説明]

3号館1階に新しくカフェ「CAFE3」をオープンした。本学は年代や国籍を問わず、多彩な人々が行き交うスーパーグローバルキャンパスであり、「CAFE3」は、人々が語り合う交流の場、憩いの場としての役割が期待されている。

### **③広報活動**

#### **・昭和女子大 TV (昭和女子大学インターネット TV) 開局 (自己点検・評価報告書：第1章)**

[説明]

2022年7月から「昭和女子大 TV」(正式名称：昭和女子大学インターネット TV)を開局した。本学の理念や目的に基づく活動の一環として、若者や女性の意見、社会課題に対する学生視点の調査結果やプロジェクト型学修での活動報告等を広く発信するプラットフォームとしての機能を担っている。

#### **[外部評価委員から]**

外部評価委員から、データサイエンス副専攻の履修者数や、数理教育を定着させるための支援方法について質問があり、意見交換を行った。また、学修ポートフォリオの導入について評価をいただく一方、ポートフォリオは使用する側の使い方が育成されていないと、評価が十分に機能しない等の課題について指摘があった。

## **報告(2) 本学の特色ある教育について**

### **①グローバル (山内内部質保証推進本部委員 / 自己点検・評価報告書：第4章)**

#### **・コロナ後の昭和ボストンの活用強化及び認定留学**

[説明]

2022年度は渡航先別にコロナの感染状況、感染対策、医療体制等を検証した上で、昭和ボストン、認定留学等の長期留学の多くを再開した。

#### **・ダブルディグリー・プログラム (DDP) の状況**

[説明]

本学と海外協定校において、2つの学位を5年間(本学で3年間、協定校で2年間学ぶ)

で取得するダブルディグリー・プログラム（DDP）は、2023年3月末までに学生69名が学位を取得している（上海交通大学（中国）：59名／ソウル女子大学校（韓国）10名）。2023年2月には淑明女子大学校（韓国）DDP1期生2名が卒業した。また、2023年度から派遣を開始したクイーンズランド大学（豪州）のDDPには学生2名（英語コミュニケーション学科1名／国際学科1名）が参加している。

#### ・ テンプル大学ジャパンキャンパス（TUJ）との連携強化

[説明]

テンブル大学ジャパンキャンパス（TUJ）とのDDPでは、2022年に1期生4名（英語コミュニケーション学科1名／国際学科3名）がTUJを卒業し、学位を取得した。2022年秋からは、現行の国際学部に加え、グローバルビジネス学部ビジネスデザイン学科もTUJとのDDPを開始し、学生2名が参加している。

TUJでの新たな学位取得型留学プログラムとして、2022年度から「TUJ 3+1 Master in Management プログラム」（昭和女子大学を3年で早期卒業した後、TUJ大学院に入学し1年間で修了を目指すプログラム）の募集を開始した。

#### ・ 全学的なグローバル人材の育成

[説明]

2022年度から、留学がカリキュラムに含まれない非国際系学科の学生を対象に、4年間を通じてグローバル社会で求められる力を身に着けることを目指す「S-GLAP」（Showa Global Liberal Arts Program）を開講し、対象となる11学科から合計42名の学生が参加した。このプログラムでは、卒業までに対象科目を履修、留学・国内交流プログラムに参加し、語学スコアや成績等の修了要件を満たした学生に大学認定の修了証が授与される。

#### ・ 外国人留学生の受け入れ促進

[説明]

2022年度は、オンラインの初中級日本語プログラム「Online Japanese Language Program」の開発、海外大学との包括・交換留学協定締結、外国人留学生と本学学生が共同で学ぶ国際共修型プログラム「日中韓プログラム」のオンライン実施等、コロナ禍の水際対策の影響で来日できない学生や渡日が遅れる学生に不利益が生じないように、海外滞在の学生も

ハイブリッドでプログラムに参加できる仕組みを整備した結果、コロナ禍前と同水準の155名の留学生を受け入れることができた。

## **②キャリア（石川内部質保証推進本部委員 / 自己点検・評価報告書：第4章、第7章）**

### **・キャリア教育、キャリア就職支援体制**

[説明]

「キャリア教育」は、全学共通教育センター及び各学科がそれぞれ主体となり、「キャリア教育科目」を開講している。「キャリア就職支援」は、教員組織である「キャリア支援部」と職員組織である「キャリア支援センター」が教職協働で推進しており、各種就職活動支援講座の企画運営、社会人メンター運営及び学生との個別相談、情報提供を通じて、就職・キャリア支援を実施している。

### **・本学への評価・実績**

[説明]

2021年度卒業生の実就職率は94.5%となり、卒業生1,000人以上の女子大学で12年連続1位（大学通信調べ）を達成することができた。なお、全国の国公立大学の中では7位、私立大学の中では5位の結果となっている。大学通信が全国624の進学校を対象に実施した「進路指導教諭が評価する大学」の2022年度調査では、「就職に力を入れている大学」「グローバル教育に力を入れている大学」「面倒見が良い大学」の3項目で全国の女子大学で1位の評価を獲得した。

### **・キャリア教育**

[説明]

全学共通教育センターが開講する「キャリアコア科目」に加え、各学科の専門性に基づく学科別キャリア科目を開講している。また、インターンシップの実施、各学科でキャリアデザインに基づく「履修モデル」を学生に提示している。

2022年にはキャリア教育科目や次世代リーダーシップ育成プログラムの見直しを行った。2022年度まで次世代リーダーシップ育成プログラムとして正課外で実施していた「リーダーズアカデミー」（グローバル社会を生きる女性に必要な見識やリーダーシップの育成を目的としたオナーズクラス）を発展させ、2023年度から新たに正課の授業で構成する「リー

ダーシップ教育認証プログラム」を開始した。

### ・キャリア就職支援

[説明]

オンライン採用選考・オンライン説明会への対応や環境整備、キャリア支援センター主催就職活動支援講座の内容、実施方法等の見直しを行い、きめの細かいキャリア・就職支援に取り組んでいる。採用選考の早期化、長期化に対しては、学生の不安解消や就職活動への早期意識付けを目的とした2年生対象の就職活動支援講座を実施、留学に参加する学生を対象に、留学前・留学後の状況にあわせた支援講座を設けた。

### ・社会人メンター制度

[説明]

社会人メンター制度では、学生が社会人としてのキャリアプランを具現化し、将来像となるロールモデルと会って、直接話を聞く機会を提供する制度である。本学卒業生、他大学出身者問わず、20代～70代の社会人女性がメンターとして登録し、学生が希望するメンターと1対1で話ができる「個別メンタリング」、テーマを設定して少人数のグループで複数のメンターと話ができる「メンターカフェ」、テーマ設定せず少人数のグループでメンターと座談会形式で自由に話ができる「メンターフェア」等のプログラムを実施している。現在、約370名程度の社会人メンターが登録している。

### [外部評価委員から]

外部評価委員から、卒業生や企業へ実施しているキャリアに関する調査の結果や社会人メンターの今後の展望について、質問があった。

## ③プロジェクト(石垣内部質保証推進本部委員 / 自己点検・評価報告書:第4章、第9章)

### ・プロジェクト活動のねらい

[説明]

本学では全学規模及び学部学科単位で、様々なプロジェクト活動を展開しており、学生の社会への関心、地域貢献等への主体的な姿勢を醸成すること、学生それぞれが自らの専門分野の知識やスキルを応用しながら、課題を発見、解決していくことで、大学がディブ

ロマ・ポリシーに掲げている社会で活躍するための柔軟な総合力を身につけることへと繋がっている。また、プロジェクト活動は、社会連携、社会貢献という観点から、大学の教育研究活動の成果を社会に還元する狙いもある。

学生たちは、プロジェクト活動で得た経験を振り返り、自身の成長過程を記録して、次なる学びの計画づくりや将来の進路選択に役立てている。

## ・プロジェクト活動の実績数

[説明]

2021年度のプロジェクト活動の総数は102件、このうち単位認定をしているプロジェクトは約半数の53件あった。アフターコロナに移行しつつある2023年度は、プロジェクト数が拡大し全体で116件に上り、このうち単位認定予定のプロジェクトは66件が進行中である。2022年度のプロジェクト型学修の事例として、学科のカリキュラムとして実施している学科プロジェクト「DP 総合演習」（環境デザイン学科）や現代ビジネス研究所が主管となって、地域・企業と実施している「ブラックラムズパートナーシッププロジェクト」（ラグビーチームとの連携）、「世田谷地域 地域交流ラボ」（世田谷区世田谷総合支所地域振興課と連携）「カルビー「シンポテト」×昭和女子大学 アイデアをカタチにプロジェクト」（カルビー株式会社と連携）等がある。

## 【外部評価委員から】

外部評価委員から、プロジェクト先の選定方法や、プロジェクトでは学生はどのような活動をしているのか等、質問があった。また、学生が希望する業態や企業とプロジェクトが実現すれば、学生の将来や就職活動のための視野が広がるのではないかとの助言があった。

## ④その他（井原内部質保証推進本部長）

### ・入試状況

[説明]

2023年度入試において、本学は首都圏の女子大学の中で一番多い志願者数を集めた。志願者数自体は数年前と比較すると減少傾向にある。女子大全体が志願者数を減らしており、女子大学、女子短期大学の閉鎖、募集停止というニュースも報道されている。昭和女子大

学としては、首都圏の女子大学志願者数 1 位に安心せずに、今後も魅力ある大学づくりや特色ある教育内容の提供に努めていきたい。

## ○講評（まとめ）

### ・ 渡辺外部評価委員

本日もいろいろな話を伺って、知らないことを学ばせていただいた。自己点検・評価報告書を読み、大変精緻にできており、かつ分かりやすく、総合的にまとめられていて、大変立派なものができていると感心した。「第 5 章 学生の受け入れ」では、入学を認めるボーダーライン上の受験生について、どういう地域活動をやってきたか、リーダーシップの経験があるかといった自己申告を参考にして合否を見ているということを知り、大変驚くと同時に、そこまできめ細かく見ているのかと感心した。机上の勉強はもちろんのこと、入学当初からリーダーシップや社会との関わりという部分を評価し、学生を受け入れていることが、プロジェクト型学修にも繋がっているのではないか。プロジェクトを通じて学生を伸ばしていくというのは一貫した指導方針であり、非常に感銘を受けた。

昭和ボストンの活用や留学生の受け入れについては、大体毎年同程度の規模で実施しているのか、またはコロナ禍で縮小した状況で、これからはもっと大々的に増やしていくことになるのか。昭和女子大学は、TUJ やボストン等、他の大学にはない独特の海外とのコネクションを持っており、長期留学をする学生だけでなく短期の留学経験もできるということは、大変な財産だと思う。学生にとって、これらを大いに活用しグローバルな思考や経験を身に付けることは将来への大きな糧になる。是非、今後ともグローバル教育に力を入れていただきたい。また、そういう学びができる大学であることをもっと宣伝して、中学生や高校生が「昭和女子大学に入りたい」としっかり理解してもらえるような、そういう PR も併せて必要だと感じた。今後とも頑張ってください。

### ・ 足立外部評価委員

今、世上では女子大学の受難の時代だと言われている。昭和女子大学は、実就職率ナンバーワン、志願者数も女子大学で 1 位という話があったが、今後の少子化時代に向けて、今から対応しておかないと大学として生き残る道はないのではないかと感じている。これからは、例えば男女併学ということも将来的には考えていかざるを得ない、そういう時代が近い将来に来るのではないか。それとともに、社会人の教育、社会人の学び舎としての



役割が大学にあれば、世上の評価もまた上がってくるのではないかと思います。そのような取り組みについても是非頑張ってください。

また、海外への留学、もしくは海外の留学生の受け入れという点では、TUJ やボストンだけではなくて、アラブやアフリカ等、地域の将来性を見据えて交換留学を行うということも考える時代が近づいてくるのではないかと。是非その辺も含めてグローバル化ということを大きな意味で考えていただければありがたい。

### ・岩本外部評価委員

今回の自己点検・評価報告書に掲載されている運営体制図を見て、あらためて非常に組織が大きいということ、学長の下に大学部局長会というのがある、その下に内部質保証推進本部が位置づけられているということを確認させていただいた。学則や規程において、内部質保証は全学的な方針や手続きを定めていると明記されているが、区役所も行政評価は非常に難しく、かつ区民の方にご理解いただくのもまた難しいところがあり、また、組織全体に行き渡させるということも非常に難しいと感じている。自己点検・評価報告書の問題点のところでは、全学的に状況把握することに課題があるとして、学内のエンゲージメントの向上、内部質保証推進体制の整備を継続していくという記載があった。大きい組織であるがゆえに、全体に行き渡されるというのは大変難しいかと思うが、是非継続して取り組んでいただきたい。

また「第7章 学生支援」では、3本柱の一つとして生活支援があげられている。コロナ禍で孤立や孤独という問題が出てきており、今、世田谷区でも基本計画という一番上位にある計画の策定作業を進めているところだが、その検討審議会の中でも、子ども・若者支援というのがメインの施策になってきている。中でも特に若い女性の危うさ、貧困の問題、身体的・精神的な問題がクローズアップされてきている状況である。報告書の中でも、保健室やハラスメントの問題に触れているが、これだけ大きい規模の女子大学になるとこのような課題も一段と多いのではないかと。世田谷区民の学生も多いかと思うので、是非その辺のご支援もお願いしたい。

「第9章 社会連携、社会貢献」について、昭和女子大学と世田谷区は、区内の大学としては最も早く平成26年に包括協定を締結させていただき、様々ご協力をいただいている。プロジェクトの説明で地域交流ラボの事例紹介があったが、その他にも社会福祉協議会との連携、区立小中学校への学生派遣等、いろいろな面でお世話になっている。これが一つ

のキャリア教育として、学生にとっても役に立つことだと思うので、是非 WIN-WIN の関係で、今後も進めさせていただきたい。

#### ・茂呂外部評価委員

PBL に関しては、学生がやりたいというテーマに対して、どうやってプロジェクト型学修を進めていくかがキーになると感じた。これからは、子どもたち、学生たちの主体性が非常に問われる時代になっていく。PBL はやっているけれど、結局はやらされている形になってしまうのではもったいない。課題を発見していくという意味で、動機付けを学生から作っていくという仕組みとなれば、より良いプロジェクト型学修ができるのではないかと。

データサイエンスについて、是非離脱させない仕組みを作っていただきたい。大学入試が変わりつつあり、女子の理系教育について注目が集まっている。東京工業大学だけでなく、東京理科大学も入試に女子枠を増やすといった動きがあるので、女子大学も負けてないというところを、先陣切ってアピールしていくことが重要になるのではないかと。

本日の説明にはなかったが、単位認定に関して、とても女子大らしい、丁寧な単位制度を設定しているという印象を持った。1 セメスターで履修できる単位数に上限を設けている等、1 人も取り残さないというような大学の姿勢が感じられる。一方で「もっとやりたい」「もっとできる」という学生をさらに伸ばしていく仕組みが同時にあると、より豊かに、活躍できる学生が増えるのではないかと印象を持った。

最後に、中等教育と高等教育の連携という点で申し上げますと、今、私学の中では高大連携がとても進んでいて、2022 年 6 月の弊社調べで、高大連携を行っている学校が 40 校程度だったものが、現在はおおよそ倍、75 校程度の私学中高一貫校が大学と連携をしている状況である。昨今の特徴としては、法人の違う大学と中高の連携が増えていて、必ずしも大学の進学枠を中高に渡すということだけではなく、教育連携が進んでいる。昭和女子大学では、法人の違う中高とどのように連携していくのか。先ほど少子化の話もあったが、今は中学 1 年から大学のオープンキャンパスに参加するという話もたくさん聞くようになった。そうすると、志願者は「大学選び」から「学部選び」へシフトしていく。既に昭和女子大学では様々な取り組みを実施されているが、これから少子化への対応として、教育的な部分での中高との連携を検討されると、より大学のアピールに繋がるのではないかと感じた。

以上の講評の後、金尾学長から外部評価委員からの評価、提言に対する謝辞と、女子大学の受難の時代と言われているが、今後も様々なことに挑戦しながらキャッチアップしていきたいとの発言があり、閉会となった。

以上